



命令に服従する社員が合格なのか！ 平等に決めろ！

「令和3年度昇格計画数」業務委員会

本部は5月24日、「令和3年度昇格計画数」についての業務委員会を開催しました。昇格人数について会社は、昨年と比べて10名多い4,000名で、有資格者の約4～5割が合格するとしています。

しかし、職場では「いくら努力しても合格しない」「なんであいつが合格なのか」などの不平・不満が渦巻いています。約4～5割が合格するということが事実かどうか疑問です。本部は「会社の命令に素直に従う社員を優先的に合格させているなら問題だ」と主張しました。

社員の皆さんは安全・安定輸送のために、日々努力しています。怠けている社員はいないはずです。昇格の格差をつけることは、安全が脅かされる原因に直結します。試験に合格するために、本来業務のほか自己の時間を使って活動し、休養が削減されるからです。また、新幹線運転士が腹痛のため運転席を離れたことに対しても、本部は「勤務査定を気にしたことが背後要因としてある」と主張しました。

リニア建設費は、1兆5,000億円増え7兆円を突破しました。まだまだ増える要素があります。人件費を抑えるために、会社は昇格数を極力低くすることも考えられます。つまり、リニア建設が社員の昇格＝賃金に跳ね返ってくるのです。会社は「昇格数の削減で人件費を抑えることも選択肢としてある」と言いました。

会社は、昇格試験の合格基準は一切明らかにしません。差別のやりたい放題が可能です。皆さん、このような制度で良いのでしょうか？

JR東海労は、合格枠を撤廃し努力した人は全員合格させること、会社に強く要求しました。